

ストーマ公開講座が参加者に及ぼす教育効果について

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻臨床看護学講座助教 今村利香, 中馬育子, 白川真紀

元鹿児島大学医学部保健学科教授 石沢 隆

県立薩南病院皮膚・排泄ケア認定看護師 小濱智美

鹿児島市医師会病院皮膚・排泄ケア認定看護師 櫻木真理子

かねこクリニック皮膚・排泄ケア認定看護師 高崎靖子

今給黎総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 下前百合香

川内市医師会病院看護師 牧尾沙織

鹿児島大学病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 宮園幸江, 武重希子

鹿児島大学病院看護師 有村夕加, 山下映美, 松元 瞳

鹿児島大学病院助教 北園正樹医師

オストメイト患者会・こだま会会長 窪田 溜

はじめに

当講座が県内の看護職を対象に、ストーマリハビリテーション教育を公開講座（以下、講座とする）として実施するようになり、今年で13回目を迎えました。定員50名に対し、毎年定員を上回る参加希望があり、これまでに824名の看護職が当講座を受講しました。

当講座では、講義だけではなく実践に対応出来るように実技演習を取り入れており、当公開講座の講義概要に対して、多くの参加者から高い評価をいただいています。当講座では、県内のストーマケアを担当している看護師のスキルアップを第一の目標にしていますが、今後の講座のあり方を検討するためにも講座受講後研修で学んだ事が実践現場に役立っているか、どの様に活用されているか主催者は知る必要があると考えました。

そこで、今回2008年度、第12回講座受講者を対象に、受講直後の講座受講の成果と、講座で学んだ事を受講者がどの様に臨床現場で活用しているかを知るために半年経過後に追跡調査を実施しました。今回、実施概要をご報告いたします。

第12回公開講座受講者

本講座は、定員50名となっておりますが、毎年多くの参加希望があり、第12回講座は66名が参加されました。

講座概要

日時：平成20年7月5日（土曜日）

9:30～17:00

対象：保健師、助産師、看護師（9～17時まで受講可能な方）

講座内容：午前中は主に講義形式にて、解剖生理や合併症、スキンケアやストーマサイトマーキングについて学び、午後からは患者会メンバーによる自らの患者体験についての講話や実技演習など実践を学ぶ形式を取りました。その他、オストメイトへの社会保障制度についての講義も実施し、患者が受けられるサービスとその窓口についても紹介しました。昼休みにはメーカーによるストーマ用品の紹介や使用法についての説明会を行い、その後は参加者が自由に業者と話しをして、新しいストーマ用品サンプルを手取るなどしていました。9～17時までの長時間に及ぶ講義演習ですが、受講者は皆、熱心に受講していました。



① 講義風景



② 演習風景

表 1. 講義概要

	講義内容
1	9:35 ~ 10:35 ストーマの基礎と臨床, 合併症
2	10:35 ~ 11:00 ストーマ造設術後の機能障害
3	11:10 ~ 11:40 ストーマケアの基本
4	11:40 ~ 11:55 ストーマサイトマーキングの実際
5	11:55 ~ 13:15 メーカーによるストーマケア用品の紹介 (ランチョン形式)
6	13:15 ~ 13:30 オストメイトの社会保障
7	13:30 ~ 13:50 オストメイトの体験講話
8	13:50 ~ 14:30 スキンケア
9	14:45 ~ 16:35 ストーマケアの実際 (実技演習)
10	16:35 ~ 17:00 質疑応答

1. 講座終了直後のアンケート結果

1. 目的

受講者アンケートを分析し講座が参加者に及ぼす教育効果について検討しました。

2. 調査対象者

2008 年度第 12 回講座を受講した看護師 66 名中, アンケート協力をいただいた 65 名です。

3. 調査方法

講座開始前に説明配布し, 終了後回収箱にて回収しました。

4. 質問項目

- ・ 公開講座の受講動機, 受講理由, 受講目的
- ・ 公開講座に対するあなた自身の満足度についてお答え下さい
- ・ 公開講座内容 (ストーマの基礎と臨床, 合併症, 術後機能障害, 基本, ストーマサイトマーキング, 社会保障, 体験講話, スキンケア, ストーマケアの実際) についての理解の状況について
- ・ ストーマサイトマーキングを実施して, 今後自分の施設で実施できると思うか
- ・ ストーマモデルを教材使用した感想
- ・ 術直後の装具交換場面はイメージ出来たか
- ・ 装具装着体験は, 今後患者ケアに役立てていけると思うか
- ・ 患者・家族から受けた相談について
- ・ 今後公開講座に取り入れて欲しい内容, 詳しく知りたい内容を教えて下さい

5. 調査実施日: 2008 年 7 月 5 日

6. 分析方法

エクセル, SPSS を用いた集計・分析を実施しました。

7. 倫理的配慮

口頭にて調査目的や倫理的配慮について説明し, 了解を得た上で自記式調査を実施しました。

8. 結果

調査紙回収率 99%でした。

参加者 66 名中男性参加者は 1 名であり, 20 ~ 30 歳代の

看護師が全体の71%を占めていました。講座内容が「ストーマリハビリテーションの基本」という事もあり、ストーマケア経験年数は、 2.7 ± 2.6 年と、経験年数が浅い方が受講されていました。

講座全体についての感想は、66%が満足と回答していました。講座内容は、「ストーマについての基礎知識」、「術後機能障害」、「社会保障制度」、「患者体験談」、「実技演習」等8項目に分類し、参加者の理解度を「全く理解出来なかった1点～非常に理解出来た5点」まで5段階で分類した結果、各項目の平均値は3.4～4.2点と、理解度は高いという結果でした。

内容についての理解状況（実施直後）

	N	平均値
ストーマの基礎と臨床、合併症	64	3.4
術後の機能障害	64	3.6
ストーマの基本	65	3.6
ストーマサイトマーキング	59	3.7
オストメイトの社会保障	63	3.4
オストメイトの体験講話	64	4.2
スキンケア	64	3.8
ストーマケアの実際	52	3.9

[1全く理解できなかった 2あまり理解できなかった 3だいたい理解できた 4理解できた 5非常に理解できた]

実技演習時には基礎的内容を中心とした事例を導入し手作りのストーマモデルを教材として使用するなど、工夫した結果、91%が術直後の装具交換場面をイメージ出来たと回答していました。

演習では「患者の立場に立つことができた」との気付きが聞かれた一方で、「WOC ナースが実際デモンストレーションをするのを見たかった」との意見や、講座全体に対して「ストーマトラブルのある患者への具体的ケアや装具選択方法を取り入れて欲しい」との具体的な要望が出されました。

9. 考察

講座受講対象者はストーマ看護経験の浅い初心者でしたが、講座内容の理解については5段階平均で、全体的に高値を示し満足が得られていました。教材を用いた実技演習では参加者の多くが実際の看護場面をイメージ出来、患者体験は患者の立場に立った看護を考える機会になっていました。しかし、1回の講座で全てを教える事は難しく、ストーマトラブルへの専門的講座を別に開催するなど、今後の検討が必要でした。

II . 講座終了半年後のアンケート結果

1. 目的

講座で学んだ事を受講者がどの様に活用し、講座の教育効果があるのかを知るために半年後に追跡調査を実施しました。

2. 調査対象者

2008年度第12回講座を受講した看護師66名中、アンケート協力をいただいた32名でした。

3. 調査方法：郵送調査留置法

講座開始前に研究について参加者全員に口頭で説明し、半年後、調査目的について記載した文書と質問紙票とを郵送した。

4. 質問項目

- ・講座受講後、実践の場でストーマケア（ストーマサイトマーキング、装具選択、社会保障制度に関わる助言、患者・家族からの相談）に関わりましたか
- ・公開講座を受講した事（ストーマの基礎と臨床、合併症、術後機能障害、基本、ストーマサイトマーキング、社会保障、体験講話、スキンケア、ストーマケアの実際）が実践の場で、どの程度役立ったか教えて下さい
- ・公開講座に対するあなた自身の満足度についてお答え下さい
- ・公開講座を受講して良かった点は？
- ・公開講座受講後、実践の場で疑問に思ったこと、今後公開講座に取り入れて欲しい内容、詳しく知りたい内容を教えて下さい

5. 調査実施日：2009年1月

6. 分析方法

エクセル、SPSSを用いた集計・分析を実施しました。

7. 倫理的配慮

回答の情報管理と個人のプライバシーは厳守される事、調査協力を拒否しても何ら不利益は被らない事を文書にて説明し、最終的には調査紙への回答記入をもって同意が得られたものとした。

8. 結果

調査紙回収率 48.5%でした。

回答者 32 名中、20～30 歳代の看護師が全体の 59%を占めていました。ストーマケア経験年数は、4.3 ± 3.8 年でした。

受講後ストーマケアに関わった人は、全体の 84%に上り、具体的な内容として、ストーマサイトマーキングを実施した人は 34%，装具選択を実施した人は 50%，社会保障制度に関わる助言を実施した人は 44%，患者や家族からの相談を受けた人は 75%に上っていました。

患者や家族から受けた具体的な相談内容として最も多かったのは、ストーマケアについてであり、次に皮膚トラブルについて、ストーマ用品の適切な使い方について、全ての項目について、講座受講前よりも受講後の方が、患者や家族から多くの相談を受けている事がわかりました。

講座を受講した事が実践の場で役立ったかどうかについて質問しました。「ストーマについての基礎知識」、「術後機能障害」、「社会保障制度」、「患者体験談」、「実技演習」等 8 項目に分類し、参加者の満足度を「全く役に立っていない 1 点～非常に役に立った 5 点」まで 5 段階で分類した結果、各項目の平均値は 3.8～4.3 点でした。

2 実践の場で役立った項目（半年後調査）

	N	平均値
ストーマの基礎と臨床、合併症	31	3.9
術後の機能障害	31	3.7
ストーマの基本	30	4.0
ストーマサイトマーキング	31	3.9
オストメイトの社会保障	31	3.8
オストメイトの体験講話	31	4.1
スキンケア	31	4.2
ストーマケアの実際	31	4.3

【1全く理解できなかった 2あまり理解できなかった 3だいたい理解できた 4理解できた 5非常に理解できた】

公開講座に対する満足度については、77%が満足と回答し、不満と回答した人はいないという結果でした。

9. 考察

半年後の追跡調査を実施して、講座で実施した内容が、実践の場で役立っている事がわかりました。患者や家族から受けた相談も、受講前よりも増えており、講座を受講し、知識を得た事で、積極的に患者や家族と関わり、その結果、相談を受ける機会が増加したのではないかと考えます。特に演習で学んだ「ストーマケアの実際」については、90%の人が、

「(非常に)役に立った」と回答し、「スキンケア」についても、83%の人が「(非常に)役に立った」と回答しました。この事が、講座受講後半年経過した後であっても、直後の満足度との有意差がなく、講座における満足度が高い結果につながったと考えます。今回の追跡調査の結果から、改めて当講座が、県内看護師のリカレント教育として役に立っている事がはっきりしました。今後も当講座を継続していく事が、鹿児島県看護師のレベルアップにつながり、患者さんに対してより良いケア提供につながるものと考えます。

Ⅲ．半年後のアンケート結果からみた、受講して良かった点

回答者から自由記述にて沢山のご意見をいただく事が出来ました。

●公開講座全体について

- ・ ストーマ造設からその合併症、ケアや社会保障まで学べ、広い範囲で理解することができた。
- ・ ストーマに関することをひとつの流れを通して勉強できた。
- ・ 基礎や社会保障、スキンケアなど学べてよかったです。
- ・ 改めて新しい知識を身につけることで、自分や患者、家族への役に立てる事が出来る。また、術式とストーマ造設の関連性、造る場所での注意点の違い、ストーマの対処、すぐに臨床に役立てられた。

●オストメイトの体験講話について

- ・ オストメイト（ストーマ造設患者）の体験を聞き、退院後の生活状況やどのようなことを工夫しているのかが分かりよかった。
- ・ 患者さんの体験講話を聞いたこと。
- ・ 体験談を聞けること

●自己の技術の振り返り

- ・ ストーマケア、スキンケアに関して、今まで曖昧だった部分が解決しました。
- ・ スキンケアについて知識不足だったため、今後に生かしていきたい
- ・ 装具の選び方も自分の知識と多少ズレがあることに気付かされた。

●実技演習について

- ・ 自分でマーキングを体験することで、より具体的に知ることができた。
- ・ 装具の選択の仕方を考えることができてよかった。（どういう患者にはどんな装具が良いなど）
- ・ ストーママーキングを講座で実際に経験したため、現場で余裕を持って行うことができた。
- ・ ストーマ用品の選択について具体的であり、患者様へも指導しやすいと思った。

●自施設への還元

- ・院内のストーマケア委員会（立ち上げたばかりで、活動が充実されていない）で、研修内容の情報交換をしたり、勉強会を開いたりして活用できたと思う。

●受講者自身のケア意欲の向上、自己効力感の向上

- ・スキンケア等、自信を持って患者にケア提供できるようになった。スタッフ指導もできるようになった。
- ・患者さんともいろいろ話ができるようになった。
- ・オストメイトの会に参加していますが、皮膚トラブルについての質問が多くあり、スキンケア等について幅広く説明することができてよかった。
- ・以前より関心が強くなった。

おわりに

本講座は、これまで長い間、大学教員や認定看護師、支援看護師、患者会といった多くの人々が一つになる事で、地域の看護者に質の高い教育を提供し、成果を残す事が出来ました。

医療は、日進月歩のスピードで、進んでおり、我々主催者側も、日々勉強していかななくてはなりません。

私たちの実施している事は、間接的ではありますが、患者や家族の入院から退院後の健康と日常生活を守る事にもつながっていると考え、今後もこの講座を継続していきたいと考えます。

Ⅳ．半年後のアンケートからみた公開講座への今後の希望

回答者から自由記述にて、希望をお聞かせいただき、KJ法を用いて、下記のように分析しました。

半年後のアンケートからみた公開講座への今後の希望

公開講座の内容に関すること

トラブル時の対応について

- ・スキントラブルを起こした後のケアについて
- ・創のトラブル、皮膚トラブル時のパウチの選択、浸出液でパウチがすぐ外れる
⇒対応策がありましたら、色々な方法を教えてもらいたい。事例検討など。
- ・ストーマの実施やトラブル時どうするか
- ・施設やスキントラブルなどのケアの実際（事例等を挙げて対処方法）を知りたいと思いました。

製品の選択について

- ・製品の選択にとても迷ってしまう。製品のみならず、アクセサリについても講義を受けてみたい。
- ・フレンジ・バックの選択の仕方。
- ・適切なストーマ用品の選び方をもっと具体的に教えて頂きたいです。

臭いへの対応について

- ・オストメイトの方の中で臭いについて質問される方が多く、インターネット等で調べた際、食事やアクセサリについての回答があったが、その他にも工夫することなどがあれば知りたいです。

メンタルケアについて

- ・ボディイメージの変化を訴える患者への接し方

公開講座の受け入れ体制に関すること

毎年研修を希望していたのですが、人数制限があることから、参加できない状態でした。実際研修に参加して、実技の必要な研修だけに大変かとは思いますが、参加人数を増やして頂いて施設毎でなく、本当に学びたい人達への意を開けて欲しい。

その他の意見

- ・ストーマ以外ですが、ターミナル期のグリーフケアなどについて学びたいです。
- ・今の現場では症例が少なく具体的には思いつきませんでした。



③受講者に配布した資料の一部・小冊子
石澤隆教授退官記念誌表紙より